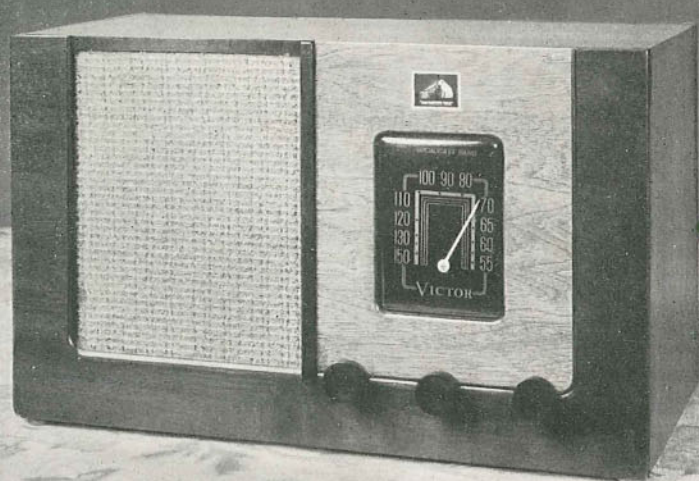




AUTO-TRANS.
VICTOR RADIO
5A-10

使用説明書



御使用前に御熟讀下さい



正しい音の認識

正しい音とは何んでせうか？ ラヂオは遠い所の音を電気ので導き、お聴きになり度い場所で再生させるのであります。放送される原音と寸分異はぬ忠實な再生音を得られる受信機でなければ、ラヂオ受信機としての値打がございません。このラヂオでお聴き取りになる音は、放送そのまゝの正しい音であります。



オートトランス受信機に就て

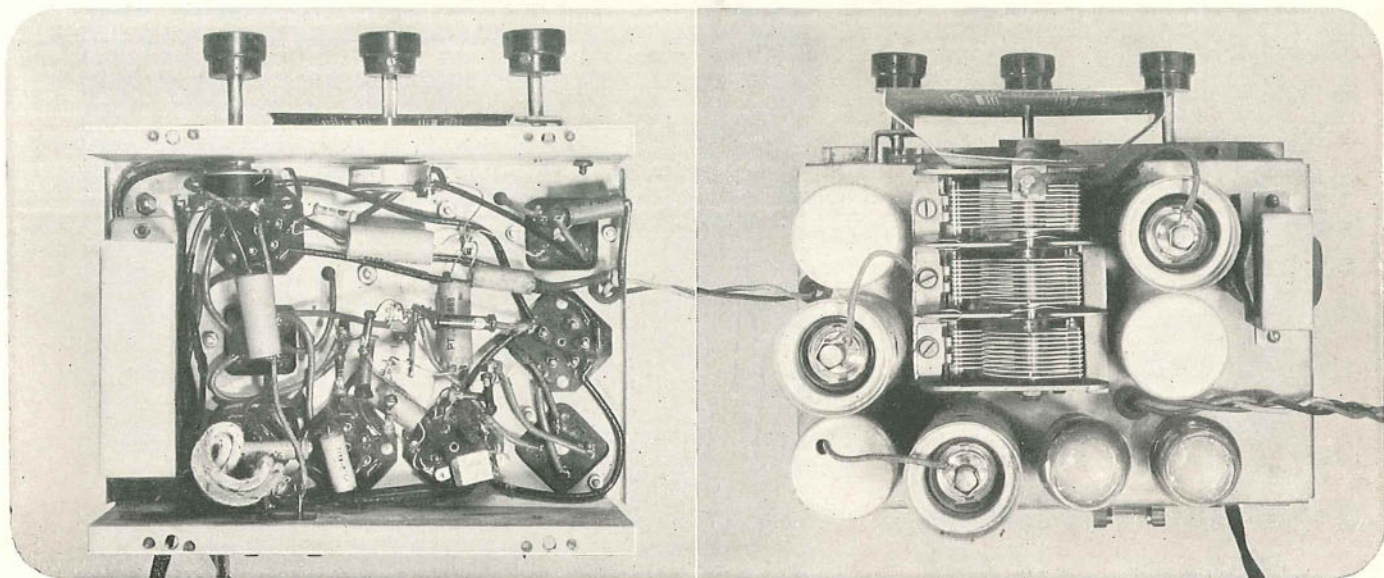
最 近電源變壓器を必要としないラヂオ、即ち所謂トランス・レス受信機が問題とされて参りました。併しトランス・レス受信機は決して珍らしいものではなく、アメリカで試作され市場に現はれたのはもう七、八年も前のことで、今では立派な實用品となつて居ります。トランス・レス受信機を一時的な間に合せの代用品とか、又は物珍らしい新しいものが現れたかのやうに考へることは大變間違つたことであります。

では何故、最近我國でトランス・レス受信機が問題とされて居るかと申しますと、受信機の部分品の中で一番銅と鐵を使用する電源變壓器の銅や鐵を極度に節約して、これを國家のもつと必要な方面に向ける、即ち必要物資の節約による國家への御奉公と、マツダ支社がトランス・レス受信機用の12ボルト級眞空管の完成によるものでありまして、その實用化は國策に順應する一方、受信機の製造が非常に進歩したことを意味するものであります。

今回ビクターで發賣いたしましたこのオートトランス・ラヂオ受信機5A-10型は所謂トランス・レス受信機ではなく、最少限度の小型電源變壓器を使用し、トランス・レスと普通の受信機との特徴を活かした理想的の構造になる非常に高率な性能を持つ受信機で、物資節約の目的をも適へた國策型ラヂオとも申されます。

本器は從來「美しい音のラヂオ、感度のよいラヂオ、分離の鋭いラヂオ」として好評を博して居ります一般ビクターラヂオ受信機に優るとも劣らぬよさを備へたラヂオ受信機でございます。

特 性



見事な程コンパクトに組立られた 5A-10 型のシャーシー (左) 底部より (右) 上部より

- | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|--------|----------|--------|----------|--------|----|--------|------|--------|--|----|--------|
| 1. 受信範囲 | 550—1500 キロサイクル | | | | | | | | | | | | |
| 1. 電気的特性 | 5 球・高周波二段増幅式 (オートトランス使用) | | | | | | | | | | | | |
| | マツダ真空管 | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="0"> <tr> <td rowspan="4" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">{</td> <td>高周波増幅第一段</td> <td>12Y-V1</td> </tr> <tr> <td>高周波増幅第二段</td> <td>12Y-V1</td> </tr> <tr> <td>検波</td> <td>12Y-R1</td> </tr> <tr> <td>出力増幅</td> <td>12Z-P1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>整流</td> <td>24Z-K2</td> </tr> </table> | { | 高周波増幅第一段 | 12Y-V1 | 高周波増幅第二段 | 12Y-V1 | 検波 | 12Y-R1 | 出力増幅 | 12Z-P1 | | 整流 | 24Z-K2 |
| { | 高周波増幅第一段 | | 12Y-V1 | | | | | | | | | | |
| | 高周波増幅第二段 | | 12Y-V1 | | | | | | | | | | |
| | 検波 | | 12Y-R1 | | | | | | | | | | |
| | 出力増幅 | 12Z-P1 | | | | | | | | | | | |
| | 整流 | 24Z-K2 | | | | | | | | | | | |
| 1. 音響的特性 | 16.5cm 勵磁線輪型ダイナミック スピーカー | | | | | | | | | | | | |
| 1. 電源 | 100 ボルト 50/60 サイクル | | | | | | | | | | | | |
| 1. 消費電力 | 23 ワット | | | | | | | | | | | | |
| 1. 出力 | 最大出力 1.5 ワット 無歪出力 0.8 ワット | | | | | | | | | | | | |
| 1. 感度 | 微電界級 | | | | | | | | | | | | |
| 1. キャビネット | 高 23cm 幅 45cm 奥行 28cm | | | | | | | | | | | | |

5A-10型の据え付け方

据え付け前の準備

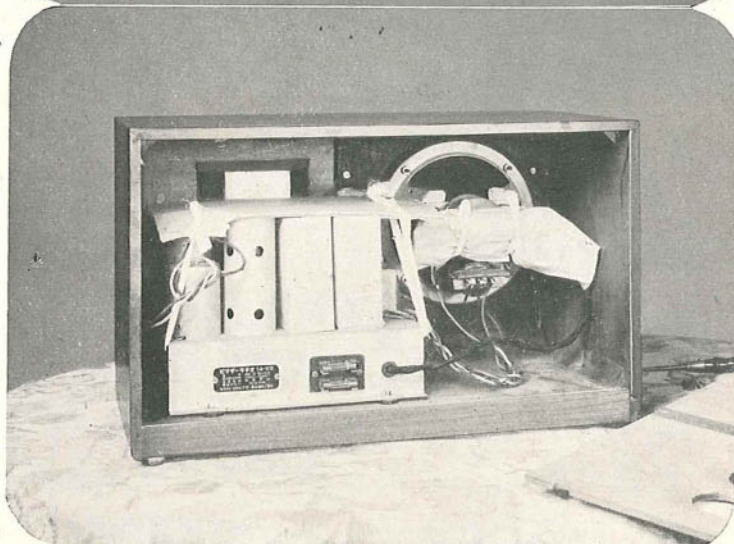
① セットは頑丈な木箱に詰められて輸送されます。御受取りになりましたら、静かに水平に置いて、指定されて居る所の板を剥して下さい。セットはボールの内函に入れてありますから、詰め込みの木屑を除き静かに取出して下さい。

② さて、御聴取に必要な準備を致しませう。先づセットを後向きに置き、螺子廻しで裏蓋を取除いて下さい。内部は運搬中の震動を防ぐためにボール紙の押へや、電源用コードが縛付けてありますから、その細紐を解き、それ等のものを取除いて下さい。尙ノブ（つまみ）も原紙に包んで入れてありますから、それも取出して置いて下さい。

③ 真空管は5個のうち、3個は遮蔽金属筒に覆はれ、その他の2個は裸のままです。



1

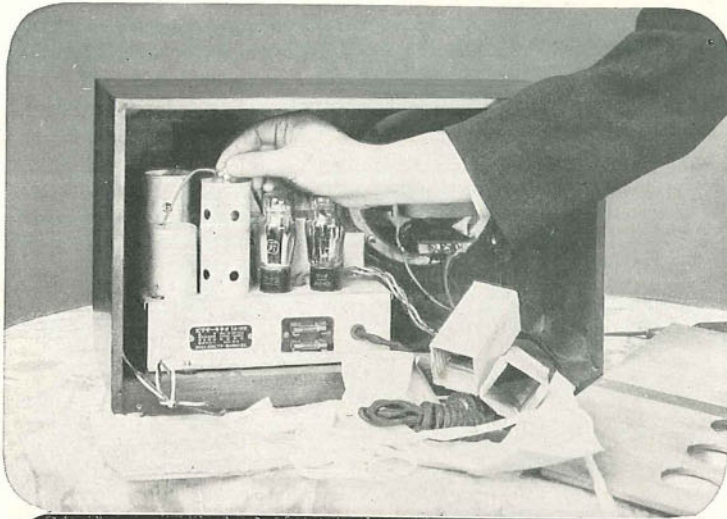


2



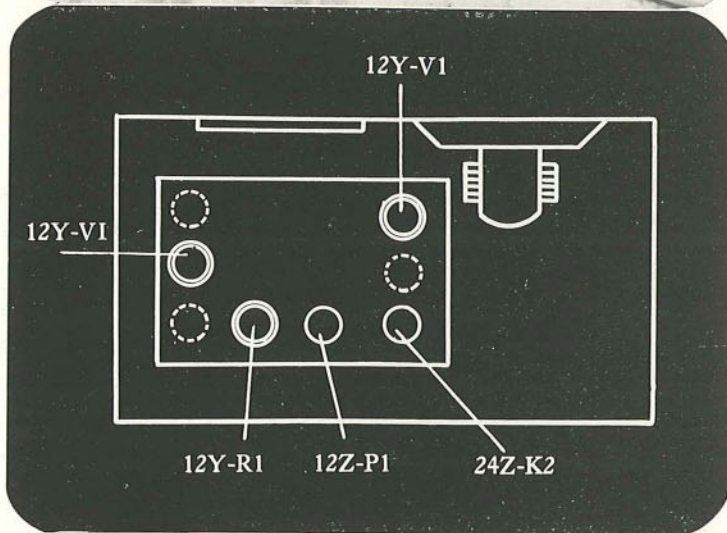
3

4



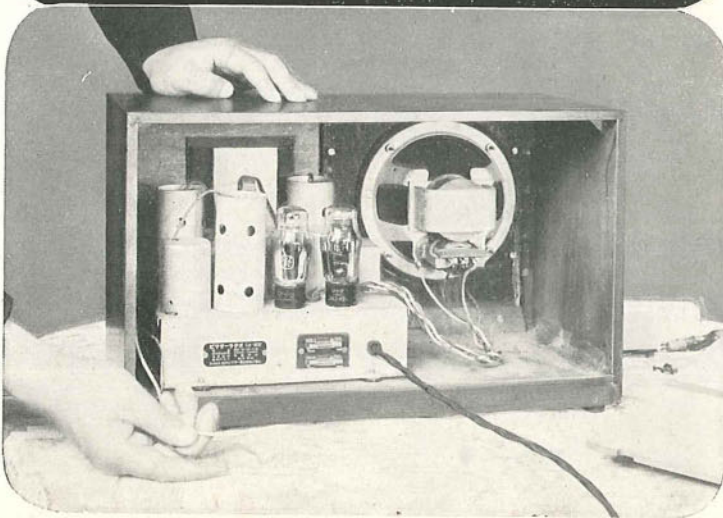
- ④ 遮蔽金属筒に覆はれたる3個の真空管には、頂點に各々金属の突起がございますから、それにその側の導線の端の金属冠をそれぞれ冠せて下さい。

5



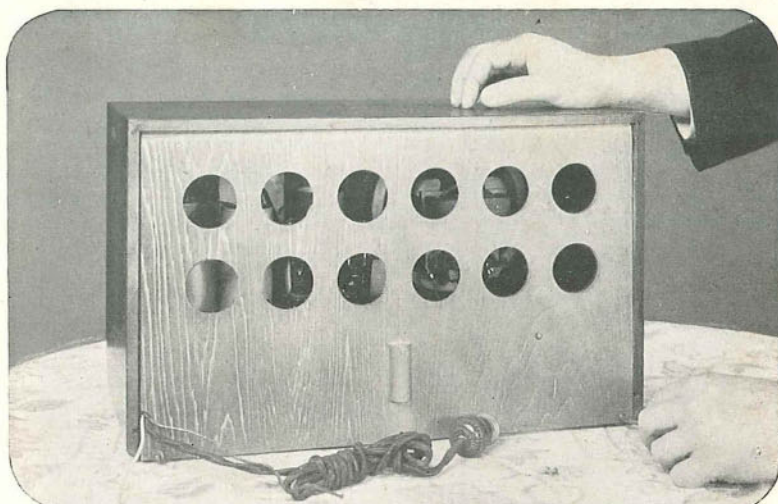
- ⑤ 真空管は(5)圖のやうに配置されて居りますから一應お調べ下さい。又弛みなどもないやうに確つかり差込んで置いて下さい。

6



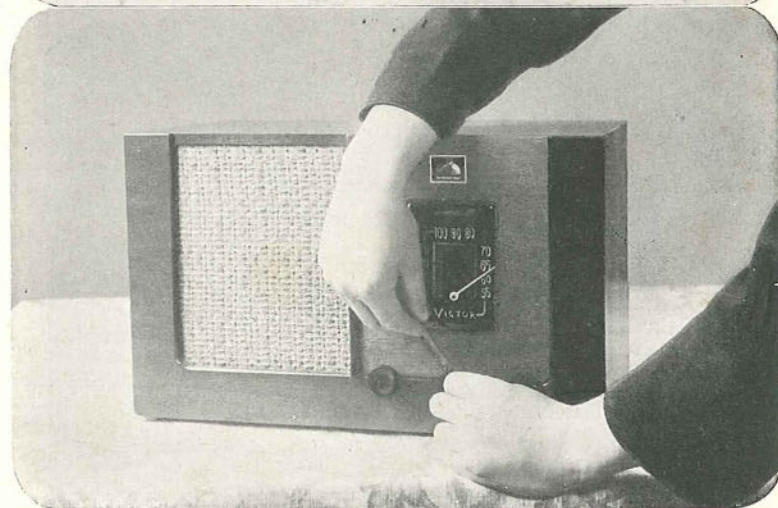
- ⑥ 次に、アンテナ線とアース線の取付けです。圖(6)を御覧下さい。キャビネットの左側に黒と黄の二本の線が出て居ります。そのうち黒線の方にアンテナ線、黄線の方にアース線をそれぞれ確つかりと取付けて下さい。この取付けが悪いと受信機の性能が十分に發揮されませんから、その接觸については特に御注意下さい。

- ⑦ 以上の準備が出来上りましたら裏蓋を取付け、セットを表向きにしてノブを取付けませう。



7

- ⑧ このノブは左右に廻轉させるものですから弛みのないやうに確り取付けて下さい。これですつかり準備が終つた譯です。



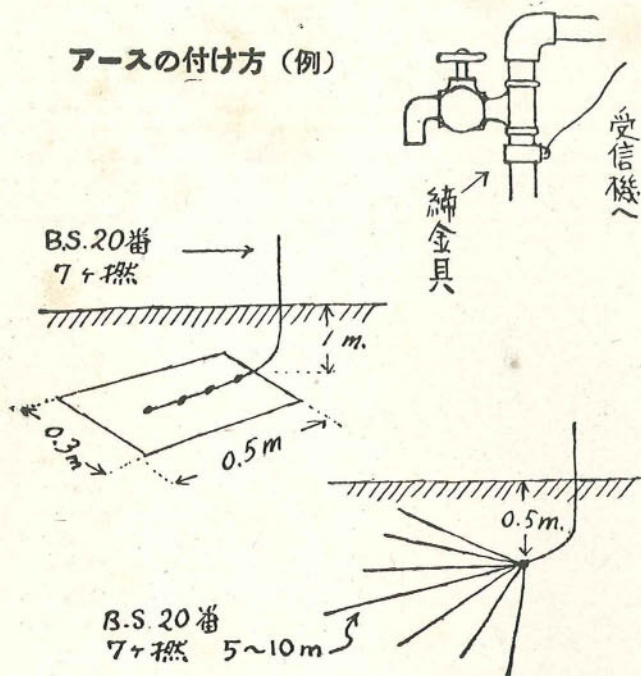
8

取扱上特に御注意願ひ度い事

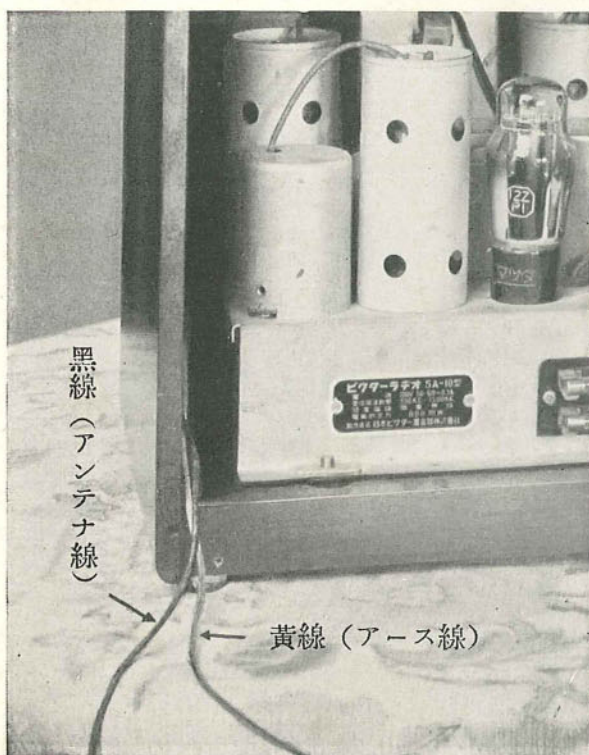
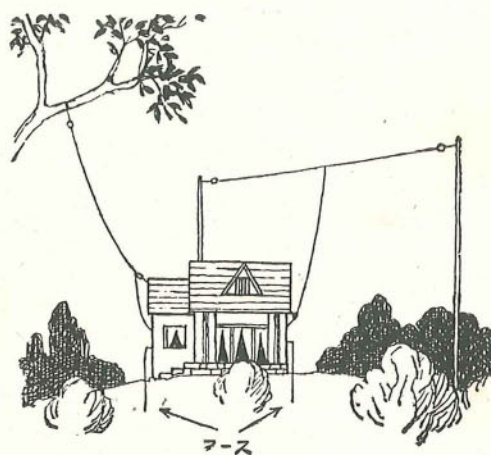
本機の裏蓋を取除き内部を點檢する場合、又は眞空管の差替へその他、内部を御操作なさる場合には必ず電源コードのソケットを電源から取除いてからにして下さい。

アンテナ線、アース線、電氣の取り方

アースの付け方 (例)



アンテナの取り方 (例)



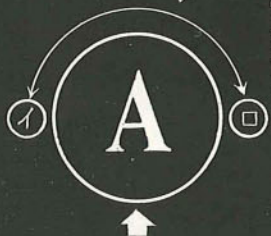
アンテナ線及アース線に就て

アンテナ線とアース線の設備は、ラジオが良く聴へるか、聴へぬかを定める大切な役割を致します。従つてこの設備は出来るだけ完全にお願ひし度いと思ひます。アンテナ線なしで聴取出来る場合でも、セットの性能を充分發揮させるためには、アンテナ線を設けた方が有利です。アンテナ線については一般的に申し上げることは難しいので、後章「取扱上の注意、その他」の項で放送電波の強い地域で聴く場合と、弱い地域で聴く場合とに別けて御説明いたします。

ダイヤル プレート



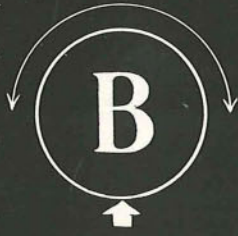
電気が切れます



電気がは入ります

電源開閉用ツマミ

音が小さくなります



音が大きくなります

音量調節用ツマミ



同調用ツマミ

アンテナ線やアース線が接続され、所定の位置に据え付けられましたら、電気を入れて御使用になれます。

ダイヤルと操作装置

(A)のつまみを(イ)から(ロ)の方へ右に廻しますと、ダイヤルが明るく輝いて電気が入ったことがわかります。真空管は、電気を入れてから約30秒位経ちますと動作し始めます。次に(C)のつまみを適当に廻し、ダイヤルの針を御希望の放送局の周波数に合はせて置きつまみ(B)を適当に右に廻せば、その放送が聴ける譯です。但し、これでは正しい同調が出来たとは云へません。正しい同調を行ふには、かうして放送が聴こへたなら、更につまみ(B)で一度音を小さくし(C)を静かに左右に廻して一番音の大きい所で止め、更に(B)によつて必要なだけの音量に調節して聴取することがラヂオの正しい同調法です。

電気の取り方

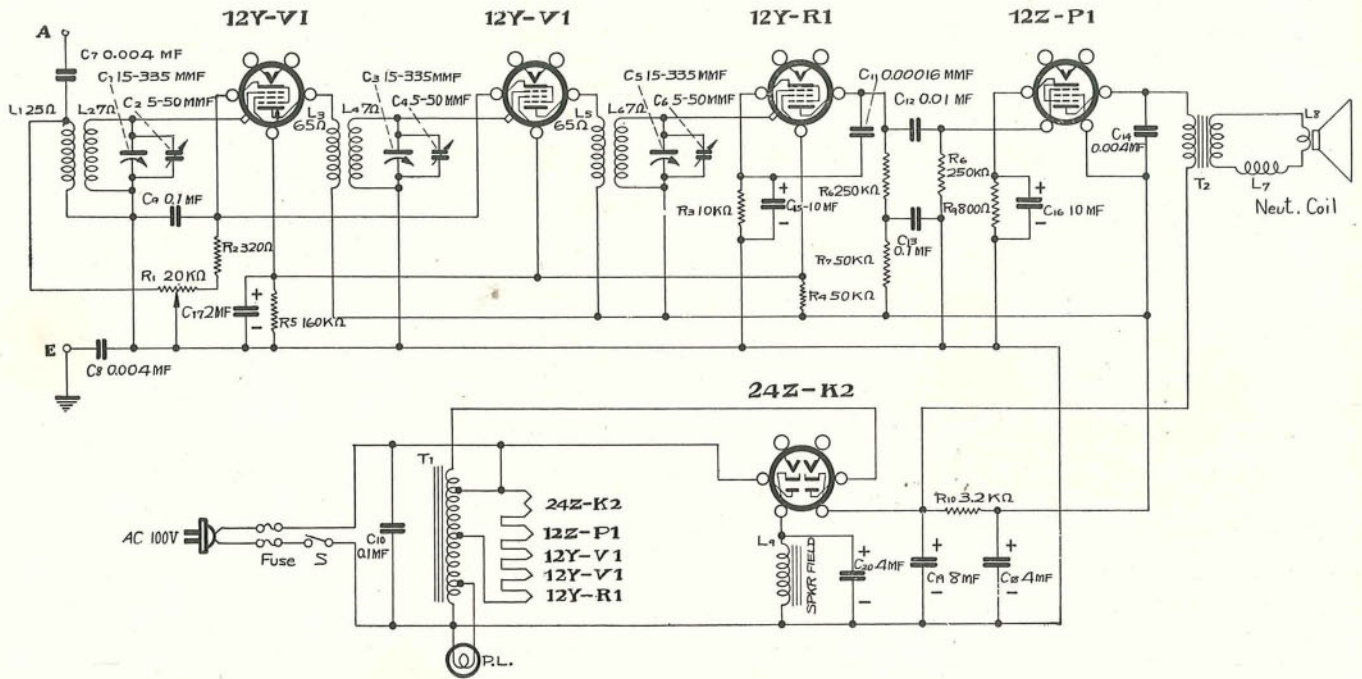
セットに付いて居るコードの端のプラグを、電熱線や電燈線のソケットに嵌め込んだだけで簡単に得られます。普通家庭用電源は50サイクル又は60サイクル交流100ボルトが標準です。この電圧が非常に違ひますと、セットに無理を生じたり、よく働らかなかつたり致します。そんな場合にはビクター特約店に御依頼下されば適當の處置を講じます。

御使用済みの場合は

電源スキッチのつまみ(A)を左に廻し、電気を切つて下さい。電気が切れると同時にダイヤルのランプも消えます。

取扱上の注意、その他

オートトランス 5A-10 型 配線図



取扱上の御注意

- ① 受信機を置く場所
 - (イ) アンテナ線、アース線の引込線が短くて済む所。
 - (ロ) 日光の直射を受けず、塵埃の少ない所。
 - (ハ) 震動、湿気のない所。
- ② 眞 空 管
 - (イ) 壊れ易いものですから、静かに取扱ふこと。
 - (ロ) 抜挿する場合には、必ず電源を切つてからにして下さい。
- ③ そ の 他
 - (イ) セットは非常に微妙な構造になつて居りますから絶対に強い震動を與へないで下さい。
 - (ロ) 受信機に電氣を入れた場合、若しハム（ブーンと云ふ音）が大きい時は、電源の差込口のソケットを逆にして差込んで下さい。
 - (ハ) 裏蓋を取除き、内部を点検又は操作する場合には必ず電源を切つて下さい。

放送電波の強い場合

東京・大阪のやうな大都會、並にその近郊で、大電力放送局が近所にある地域です。このやうな場所では、鐵筋コンクリートの建物内、又はそうした大建築物に接近した場合を除き、必ずしも屋外にアンテナ線を設ける必要はありません。僅か數メートルの絶縁良好なアンテナ線を室内——天井又は『なげし』——に張つたのみで充分強く聴取することが出来ます。それでも不充分の場合は、アース線を取付けて下さい。アース線は成る可く短くして、地面へ銅製の棒又は管を打込み、それに繼いで下さい。水道管があればそれをよく磨いて接続します。

放送電波の弱い場合

前項と反對に大電力放送局との間に相當の距離がある地域では、電波強度が弱いため、室内アンテナでは不充分の惧れがあります。で、こう云ふ地域ではアンテナ線を屋外に出した方が有効です。屋外アンテナの作り方は前頁の圖解通り大體 T型、L型の二種類が普通の張り方です。その長さは引込線共に5—20メートル、高さは事情の許す限り高い程好結果が得られます。そしてその張り方も、送電線や配電線から離れ強風の場合などにもそれと接觸する惧れのないやうに張り、角度はそれ等と直角になるやうにするのが理想的です。又直接建物や樹木に觸れないやうに御注意下さい。

如何に御健康な方々でも、時には風邪や、腹痛に惱ませられるやうに、優秀なラヂオでも輸送中に起る不可抗力の震動による損傷受信機以外の故障、或はそれ自體に故障を生ずることがないでもございません。若し、受信機の故障の場合には必ず信用の出来るビクター特約店に御相談下さい。

全國放送局一覽表

放 送 局		呼 出 符 號	周 波 數 キロサイクル	波 長 メートル	電 力 キロワット
濱 松	HAMAMATSU	J O D G	1 1 0 0	2 7 2.5	0.5 0
山 形	YAMAGATA	J O J G	1 0 8 0	2 7 7.6	0.5 0
京 都	KYOTO	J O O K	1 0 7 0	2 8 0.2	0.3 0
富 山	TOYAMA	J O I G	1 0 6 0	2 8 2.8	0.5 0
鹿 兒 島	KAGOSHIMA	J O H G	1 0 5 0	2 8 5.5	0.5 0
長 野	NAGANO	J O N K	1 0 4 0	2 8 8.2	0.5 0
福 井	FUKUI	J O F G	1 0 2 0	2 9 3.9	0.3 0
釧 路	KUSHIRO	J O P G	1 0 1 0	2 9 7.0	0.1 0
名古屋(第二)	NAGOYA No. 2	J O C K	9 9 0	3 0 2.8	1 0.0 0
德 島	TOKUSHIMA	J O X K	9 8 0	3 0 5.9	0.5 0
			9 7 0	3 0 9.1	
松 本	MATSUMOTO	J O S G	9 6 0	3 1 2.5	0.5 0
帶 廣	OBIHIRO	J O O G	9 5 0	3 1 5.7	0.5 0
大 阪(第二)	OSAKA No. 2	J O B K	9 4 0	3 1 9.1	1 0.0 0
長 崎	NAGASAKI	J O A G	9 3 0	3 2 2.4	0.5 0
新 潟	NIIGATA	J O Q K	9 2 0	3 2 5.9	0.5 0
福 岡	FUKUOKA	J O L K	9 1 0	3 2 9.5	0.5 0
			9 0 0	3 3 3.5	
鳥 取	TOTTORI	J O L G	8 9 0	3 3 6.9	0.5 0
盛 岡	MORIOKA	J O Q G	8 8 0	3 4 1.0	0.5 0
東 京(第二)	TOKYO No. 2	J O A K	8 7 0	3 4 4.6	1 5 0.0 0
			8 5 0	3 5 3.0	
弘 前	HIROSAKI	J O R G	8 4 0	3 5 6.9	0.3 0
廣 島	HIROSHIMA	J O F K	8 3 0	3 6 1.2	1 0.0 0
			8 2 0	3 6 5.6	
札 幌	SAPPORO	J O I K	8 1 0	3 7 0.2	1 0.0 0
甲 府	KOFU	J O K G	8 0 0	3 7 4.8	0.5 0
熊 本	KUMAMOTO	J O G K	7 9 0	3 7 9.5	1 0.0 0
靜 岡	SHIZUOKA	J O P K	7 8 0	3 8 4.4	0.5 0
仙 台	SENDAI	J O H K	7 7 0	3 8 9.4	1 0.0 0
			7 6 0	3 9 4.7	
			7 5 0	3 9 9.8	
小 倉	KOKURA	J O S K	7 4 0	4 0 5.2	1.0 0
名古屋(第一)	NAGOYA No. 1	J O C K	7 3 0	4 1 0.0	1 0.0 0
高 知	KOCHI	J O R K	7 2 0	4 1 6.4	0.5 0
旭 川	ASAHIGAWA	J O C G	7 0 0	4 2 8.3	0.3 0
大 阪(第一)	OSAKA No. 1	J O B K	6 9 0	4 3 4.5	1 0.0 0
函 館	HAKODATE	J O V K	6 8 0	4 4 0.9	0.5 0
松 江	MATSUE	J O T K	6 7 0	4 4 7.5	0.5 0
			6 6 0	4 5 4.3	
秋 田	AKITA	J O U K	6 5 0	4 6 1.3	0.3 0
岡 山	OKAYAMA	J O K K	6 3 0	3 7 5.9	0.5 0
			6 2 0		
金 澤	KANAZAWA	J O J K	6 1 0	4 9 1.5	3.0 0
宮 崎	MIYAZAKI	J O M G	6 0 0	5 0 0.0	0.5 0
東 京(第一)	TOKYO No. 1	J O A K	5 9 0	5 0 8.2	1 5 0.0 0

放送局	呼出符號	周波數 キロサイクル	波長 メートル	電力 キロワット
平壤(第二)	HELJO No. 2	J B B K	1 0 9 0	0.5 0
咸興	KANKO		1 0 5 0	0.2 5
釜山	FUZAN	J B A K	1 0 3 0	0.2 5
京城(第二)	KEIJO No. 2	J O D K	9 7 0	5 0.0 0
清津	SEISHIN	J B C K	8 6 0	1 0.0 0
平壤(第一)	HELJO No. 1	J B B K	8 2 0	0.5 0
京城(第一)	KEIJO No. 2	J O D K	7 1 0	1 0.0 0
裡里	RIRI		5 7 0	0.5 0
台北	TAIHOKU	J F A K	7 5 0	1 0.0 0
台南	TAINAN	J F B K	7 2 0	1.0 0
台中	TAICHU	J F C K	5 8 0	1.0 0
牡丹江	MUTANKIANG	M T G Y	1 0 1 5	0.0 5
安東	ANTUNG	J Q B K	8 0 5	0.0 5
奉天	MUKDEN	M T B Y	8 9 0	1.0 0
承德	CHENGTE	M T H Y	9 1 5	0.0 5
大連	DAIREN	J Q A K	7 6 0	1.0 0
哈爾濱	HARBIN	M T F Y	6 7 4	3.0 0
新京(第一)	HSINKING No. 1	M T C Y	5 6 0	1 0.0 0



ラジオ聴取者の心得

- ① ラジオをお備へになりましたら、直ちに聴取許可願をお出し下さい。手続は至極簡単で三等郵便局、電信局、電話局、ラジオ商、その他で取扱つてくれます。
- ② 許可通知と共に許可章をくれます。聴取料は毎月50銭です。都會地では毎月集金に参りますが、毎月集金出来ない地方では6ヶ月分、3圓を『集金郵便』『振替貯金』で集金することになつて居ります。
- ③ 許可を受けずに勝手にラジオを装置して聴きますと無線電信法違反になります。
- ④ 名義變更、装置場所を變更した場合にはそれぞれ届出の必要があります。
- ⑤ 若し聴取を廢止した場合には、直ぐに装置を撤去し、届出と同時に許可章をお返し下さい。
- ⑥ 故なく必要以上の大きな音を出すことは法規で取締られて居るばかりでなく、音質も低下致します。靜かに適當の音聲で放送をお聴き下さい。



日本ビクター蓄音器株式会社

横濱・東京・大阪・名古屋・福岡・札幌・台北・京城